

## 第2章 施策の展開方向

### 1 多様な森林づくり

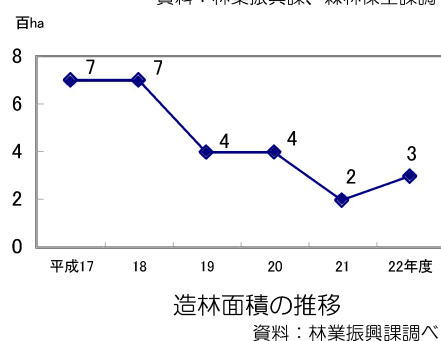
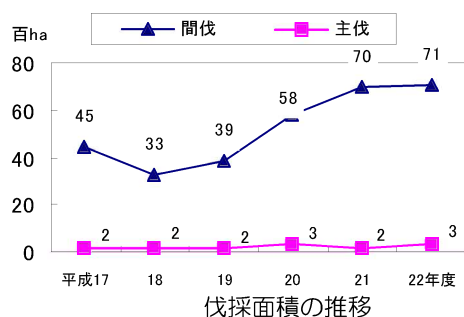
森林を再生する森林環境税や森林を育成する造林事業を活用した間伐が進み、間伐面積は前年並みの約7,000haでした。森林のもつ水源のかん養や山地災害防止機能が強化されました。

#### (1) 水土保持林

##### ○ 森林整備

(間伐面積は前年並み)

- ・間伐面積は約7,000haで前年並みでした。これは、20年度から始まった森林環境税を活用した間伐が、計画的に進んでいるためです。
- ・造林面積は284haで、前年に比べ約50ha増加しました。これは、複層林の整備が進んだことなどによるものです。
- ・間伐や造林、下刈を含めた森林整備の面積は約10,000haで、前年並みです。



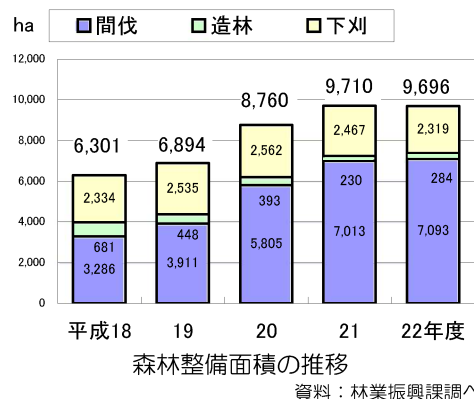
#### 【実施した主な内容】

(森林施業の集約化を推進)

- ・複数の施業地をまとめた集約化施業を推進し、木材生産のコスト縮減を図ることで、林業・木材産業の再生を目指しています。

また、集約化施業に必要な森林所有者や境界の明確化など、森林情報の収集活動にも取り組んでいます。

- ・「福岡県森林整備加速化・林業再生基金」を活用し、集約化施業により約600haの間伐を実施しました。



放置竹林・侵入竹対策事業実績

##### ○ 竹林整備

(整備面積は増加)

- ・放置竹林の整備面積は約26haで、前年に比べ約16ha増、侵入竹の整備面積は約187haで、前年に比べ約3ha増加しました。

区分	事業名	単位	平成18	19	20	21	22年度
放置竹林	造林事業	ha	2.81	8.04	7.34	2.39	5.84
	治山事業	ha	8.25	3.43	6.37	7.16	19.01
	特用林産改良	(ha)	0.00	0.74	1.72	0.35	1.14
	基盤整備事業	竹林粉碎機	4台	3台	3台	4台	2台
	整備面積計	ha	11.06	12.21	15.43	9.90	25.99
	竹林オーナー制度	ha	2.47	5.75	8.43	10.41	10.45
侵入竹	造林事業	ha	14.48	3.12	3.35	0.17	0.37
	治山事業	ha	23.20	31.45	33.31	34.03	37.25
	荒廃森林再生事業(森林環境税)	ha	-	-	51.73	145.34	141.77
	森林整備加速化・林業再生事業	ha	-	-	-	4.37	7.56
	整備面積計	ha	37.68	34.57	88.39	183.91	186.95
	放置竹林拡大防止実証事業	m	-	-	-	3,192	-

資料：林業振興課、森林保全課調べ

## 【実施した主な内容】

(遮断壁の設置により放置竹林の拡大を防止)

・放置竹林の拡大を防止するため、21年度に果樹園と放置竹林の間に遮断壁を設置しました。

現在、設置した50か所のうち果樹園への侵入竹はほとんどありませんが、効果を検証するため、5年間継続して調査します。



遮断壁の埋設による侵入防止

## 【県が実施する放置竹林・侵入竹対策】

### 放置竹林対策①

放置竹林を皆伐し、天然林等へ誘導  
【事業名：放置竹林対策モデル事業(H23~25)】



放置竹林の皆伐

竹林の解消

### 放置竹林対策②

竹を伐採してスギ・ヒノキ等に改植  
【事業名：造林事業、治山事業】



放置竹林の伐採

スギ・ヒノキ等へ改植

### 放置竹林対策③

竹林オーナー制度（都市住民等がオーナーとして竹林を管理する取組）の普及



放置竹林

### 放置竹林対策④

放置竹林を整理し、タケノコ生産林に改良  
【事業名：特用林産品産地整備事業、森林・林業・木材産業づくり交付金事業】



放置竹林の本数を調整

タケノコ生産林へ

### 人工林への侵入対策

- ・スギ・ヒノキ等の人工林に侵入した竹の伐採  
【事業名：造林事業、治山事業】
- ・荒廃した人工林（スギ・ヒノキ等）に侵入した竹の伐採  
【事業名：荒廃森林再生事業（森林環境税）】

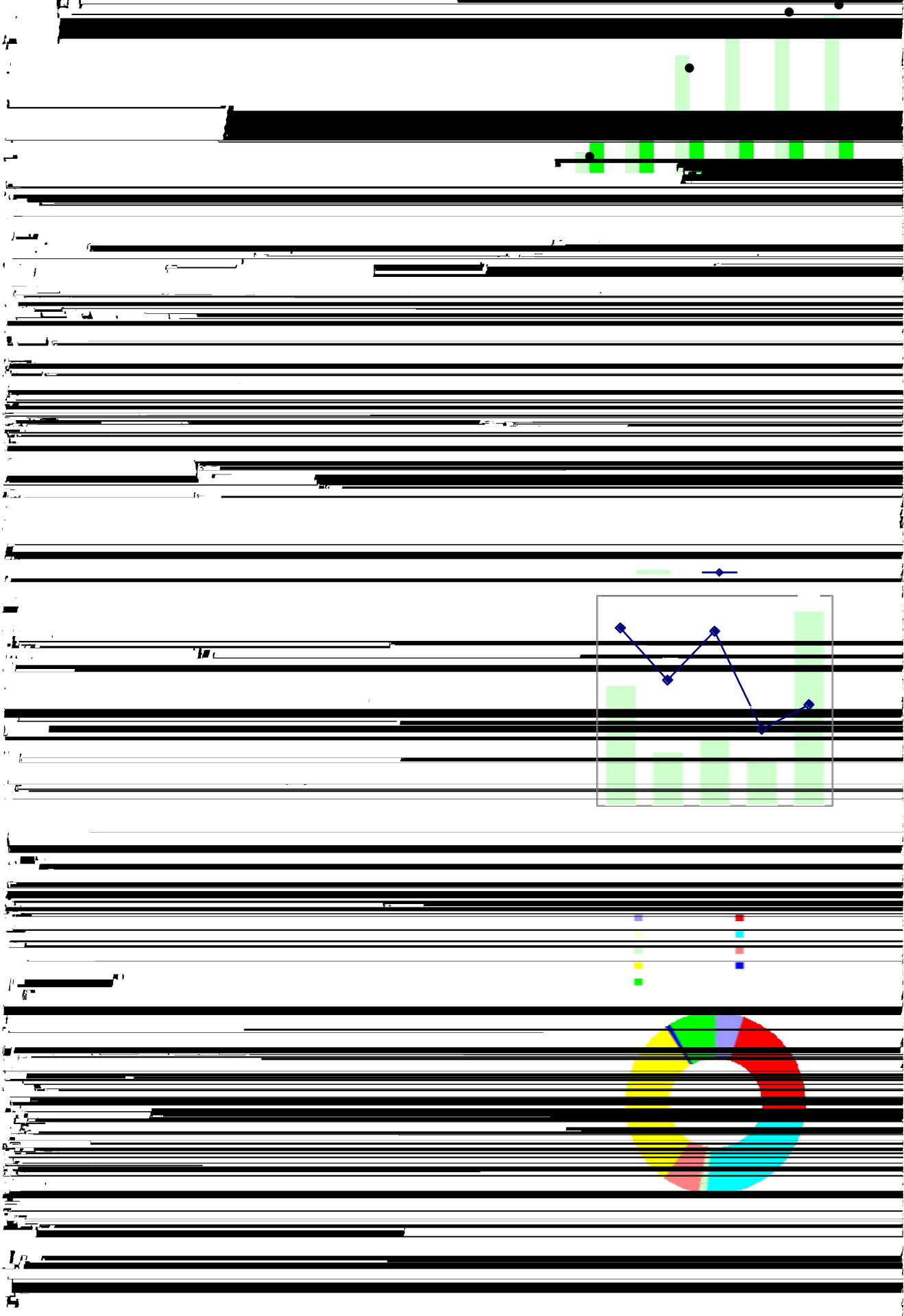
人工林

※竹林オーナー制度：竹林の所有者と都市住民などが一定期間の管理契約を結び、オーナーとなった契約者が竹林の管理(収穫まで)を行う制度。放置竹林など、所有者による管理が難しくなった竹林の解消方策として期待される。

# ○ 保安林

(県内森林面積の約5割を占める保安林)

千ha 民有保安林 国有保安林 %  
● 保安林率の推移 90 50



## 【(財)福岡県水源の森基金の取組】

- ・昭和 53 年に北部九州を襲った大渇水を契機に、翌 54 年 10 月に(財)福岡県水源の森基金が設立されました。
- ・ダムの周辺をはじめ水源として重要な森林を「水源の森」に指定し、「緑のダム」としての働きを十分に発揮できるよう様々な取組を行っています。

### (基金を活用し「水源の森」の整備を推進)

- ・基金では、「水源の森」に指定された森林の整備費用を一部助成しています。
- 約 3,250ha の森林を整備するとともに、新たに対象とした作業道の開設やシカ防護柵、約 34km を整備しました。

水源の森基金事業（森林造成整備）の実績

種別	期	1 期計	2 期計	3 期計	4 期計	5 期計	7 期 (H21~H22)		計	
		S54~S58	S59~S63	H1~H5	H6~H10	H11~H15	H16~H20	H22年度		7 期計
造林	面積	884	453	919	2,077	178	1,203	2	31	5,745
	金額	38,907	21,804	48,756	136,749	11,464	78,752	178	2,335	338,767
下刈	面積	10,416	16,108	10,800	17,712	11,815	6,531	1,364	2,890	76,272
	金額	75,038	113,845	81,355	194,208	136,809	67,585	16,244	34,068	702,908
除伐	面積						1,340	124	289	1,629
	金額						21,496	2,163	5,011	26,507
間伐	面積	37,156	36,859	16,628	9,785	10,915	9,323	1,667	3,364	124,030
	金額	1,460,515	1,170,410	316,530	269,356	156,469	177,614	51,268	99,082	3,649,976
枝打	面積	16,029	6,702	2,413	1,345	933	878	94	189	28,489
	金額	227,358	125,878	51,914	28,647	12,201	11,174	1,429	2,803	459,975
シカ防護柵	延長							7,647	7,647	7,647
	金額							853	853	853
作業道	延長							26,852	46,245	46,245
	金額							2,800	4,895	4,895
計	面積	64,485	60,122	30,760	30,919	23,841	19,275	3,251	6,763	236,165
	延長							34,499	53,892	53,892
	金額	1,801,818	1,431,937	498,555	628,960	316,943	356,621	74,935	149,047	5,183,881

(単位：面積ha、延長m、金額千円)

資料：(財)福岡県水源の森基金調べ

・「水源の森」の重要性を広く県民にPRするため、ポスター原画コンクールや森林学習活動、案内板の設置などを行っています。

・曲淵及び油木ダムの上流で、162 名が間伐・枝打ちを行いました。

・また、労働力の確保対策や林業事業者が加入する社会保険の充実、技能向上研修など労働環境対策にも取り組んでいます。



小学校の部  
八女市立長峰小学校  
4年生  
ますなが よしのり  
増永 佳論 さん

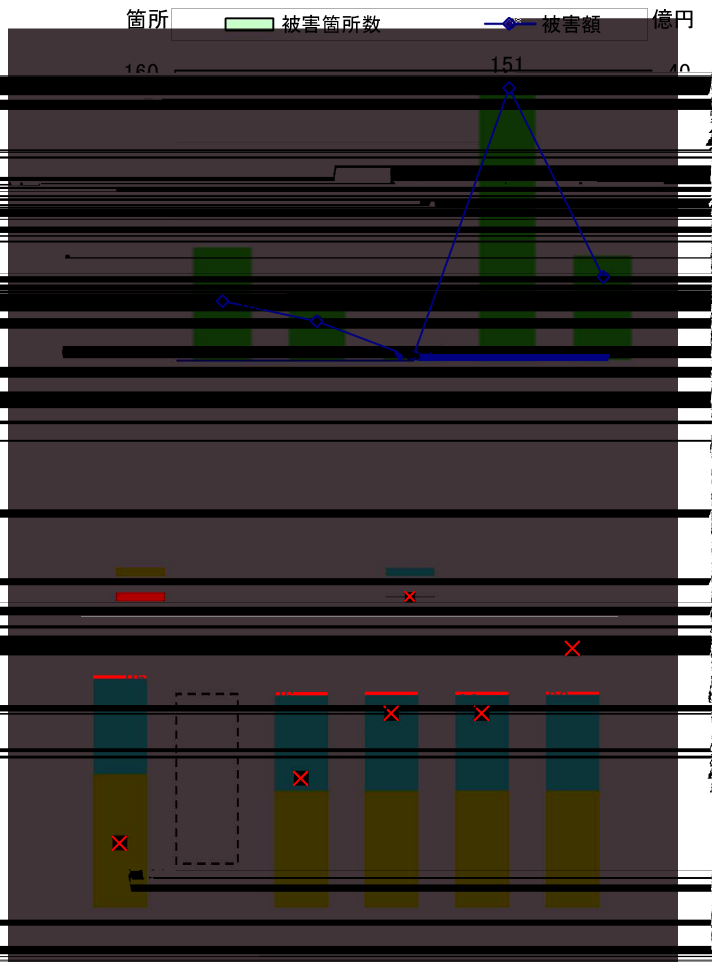


中学校の部  
明光学園  
3年生  
だけした まなみ  
武下 茉奈実 さん

平成 22 年度水源の森ポスター  
原画コンクール（最優秀作品）

○ 山地災害

(山地災害は減少)





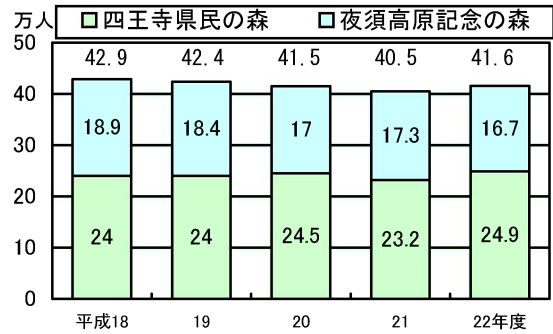
## (2) 森林と人との共生林

### ○ 森林公園

(県立森林公園の利用者は前年並み)

・県立森林公園の利用者は、約 416,000 人で前年並みでした。

「夜須高原記念の森」の利用者は 22 年 7 月の豪雨災害に伴う主要アクセス道路の通行止の影響により、前年に比べ約 6,000 人減少しましたが、「四王寺県民の森」では約 17,000 人増加しました。



森林公園利用者の推移

資料：林業振興課調べ

### 【実施した主な内容】

(魅力ある森林公園を目指した取組を強化)

- ・森林公園の管理・運営については、民間の能力を活用できる指定管理者制度<sup>\*</sup>を導入しています。
- ・親子を対象にした木工教室や森林公園の魅力伝える写真展など、県民が親しみやすい森林公園の運営に努めています。



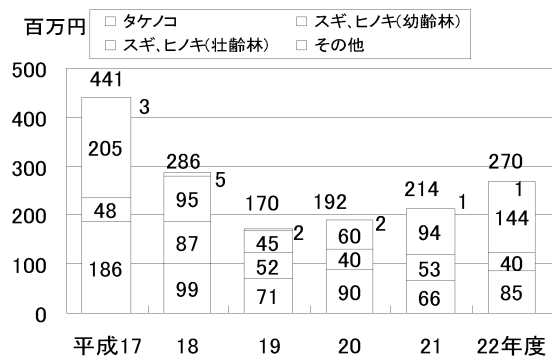
木工教室の開催（夜須高原記念の森）

<sup>\*</sup>指定管理者制度・地方自治法に定める「公の施設」の管理運営を民間事業者などに委ねることができる制度

### ○ 野生鳥獣による林産物被害

(野生鳥獣による林産物被害は増加)

・野生鳥獣による林産物の被害額は約 2 億 7 千万円で、前年に比べ約 6 千万円増加しました。これは、シカによるスギやヒノキの壮齢林に対する樹皮剥ぎ被害が増加したためです。



林産物被害額の推移

資料：林業振興課調べ

### 【実施した主な内容】

(被害防止対策や獣肉利用を推進)

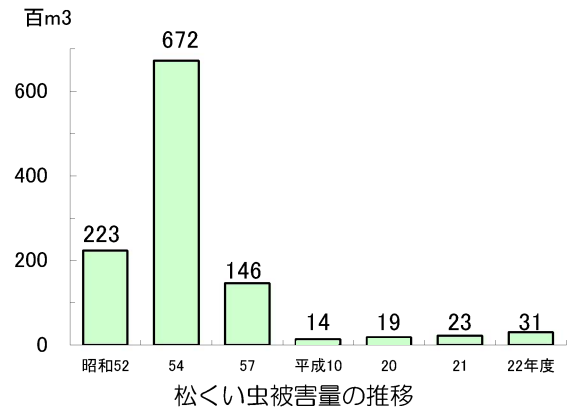
- ・林木についてはシカによる苗木の食害が発生しているため、シカ防護柵を約 2.7km 設

## ○ 松くい虫被害

(松くい虫被害はピーク時から大幅に減少)

・松くい虫により松が枯れる被害<sup>\*</sup>の量は約3,000 m<sup>3</sup>でピーク時の約5%ですが、高温少雨が要因となり、前年に比べ800 m<sup>3</sup>増加しました。

<sup>\*</sup>松くい虫により松が枯れる被害：カミキリムシ科などの害虫が松に寄生して樹皮下や材部を食害し枯死させるもの。現在、全国的に発生している被害はマツノマダラカミキリによって媒介されるマツノザイセンチュウによるもの。



資料：林業振興課調べ

### 【実施した主な内容】

(薬剤散布などによる防除を実施)

・ヘリコプターを利用して薬剤を散布する特別防除に加え、昨年度から、薬剤の散布が行えない地域の松に薬剤を注入する樹幹注入を強化しました。

		平成18	19	20	21	22年度
予防	特別防除(空中散布):ha	29	25	23	21	21
	地上散布:ha	200	204	208	206	195
	樹幹注入(薬剤本数):本	2,448	3,704	2,556	4,929	4,863
駆除	伐倒駆除:m <sup>3</sup>	275	408	334	564	1,254

松くい虫防除実績の推移

資料：林業振興課調べ

(松くい虫被害に強い「ハイパーマツ 黒」を開発)

・県では、松くい虫被害に対する抵抗性が極めて高い松の苗木開発に取り組みました。

九州各県と(独)林木育種センター九州育種場が共同で、九州で最も病原力の強い線虫をクロマツ苗木20,000本に感染させ、抵抗性による選抜を行いました。

その中から得苗率<sup>\*</sup>7割が見込める94品種を選抜し、九州統一ブランド「ハイパーマツ 黒」と名付けました。

現在、森林林業技術センターでこれらの母樹を育成しており、今後、「ハイパーマツ 黒」の普及を推進します。

<sup>\*</sup>得苗率：山行き苗として出荷できる苗木の割合



選抜したクロマツの発根促進試験(右上：良好に発根したさし木苗)

選抜したクロマツの発根促進試験(右上：良好に発根したさし木苗)

### 【少花粉スギ苗木供給を開始】

・少花粉スギの植栽を推進するため、さし木苗生産に必要な穂(枝先の部分)を採る親木の生産に取り組みできました。23年2月から苗木の供給が始まり、約7,000本の少花粉スギが植栽されました。



少花粉スギの苗木

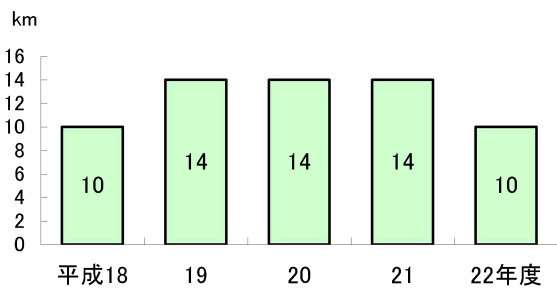
### (3) 資源の循環利用林

#### ○ 路網整備

##### (林道・作業道の整備が進む)

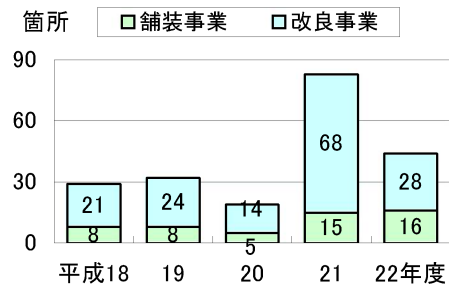
・林道は19路線で約10kmが開設され、これまでの林道開設延長は1,935km、林道密度は7.7m/haとなり、全国平均(平成20年度末)を2.4m/ha上回っています。

また、法面保全や路盤改良等の林道改良を28か所、走行性の向上を図るための林道舗装を16か所実施し、356路線約165kmの作業道を整備しました。



林道開設の推移

資料：林業振興課調べ



林道改良・舗装事業の推移

資料：林業振興課調べ

#### 【実施した主な内容】

##### (GPS 測量を活用し、効率的な路網整備を推進)

・効率的な路網<sup>\*1</sup>の整備を進めるため、22年度より県内のすべての作業道の位置や延長をGPS<sup>\*2</sup>測量機を用いて調査し、図面化する作業を進めています。

##### (木材を利用した工法により需要を拡大)

m<sup>3</sup>木材を利用した木柵工、階段工などの工法を積極的に採用し、木材の需要拡大に努め、278を使用しました。



木材を利用した工法の推進  
弓張岳線(添田町)